

令和5年度 事業者防災訓練実施計画（案）

改訂 令和5年9月27日

令和5年9月14日

東芝エネルギーシステムズ株式会社

1. 訓練計画概要

1. 1 中期計画上の今年度訓練の位置づけ

2022年度（令和4年度）の訓練は、中期計画のなかで2部制を取り入れた最初の訓練として行った。1部、2部とも防災管理者（正、副）を含む訓練参加者全員に訓練シナリオを非開示とし、ERCとの速やかな接続と情報共有、FAX情報を適切なものとする、事故収束の適切な説明を主眼とした訓練を行った。この訓練の結果、ERC備え付け資料をNCA廃止措置の状況を反映したものに改訂すること、第1報はより速やかに行うこと、モニタリング状況について分かりやすく伝え、またFAX記載事項がいつの情報であるかを記載すること等の課題が生じた。

今年度は、昨年度と同様に2部制の訓練とし、第1部はより現実的に発生する訓練のシナリオをもとに総合訓練を、第2部は特定事象発生時の情報収集・通報を中心とした訓練を行う。2つの訓練を通じて、上記課題が十分に解決できるか確認する。

1. 2 訓練の目的

訓練は、原子力事業者防災業務計画 第2章第7節「防災訓練の実施」に基づき、原子力防災組織の対応能力向上を目的として実施し、原子力災害の拡大防止に有効に機能することを確認する。主たる検証項目及び達成目標を以下に示す。

1. 3 主な検証項目及び達成目標

主な検証項目及び達成目標を以下に示す。

【検証項目1】FAXによる通報連絡（P8記載 前回までの訓練課題2、3に対応）

【達成目標】以下の項目について有効性を確認する。

- ・第1報をできるだけ速やかに送付する。（本部設置から15分以内を目途とする）
- ・モニタリング状況等を分かりやすく速やかに伝える。モニタリング場所の図が提示されること。
- ・FAX記載事項がいつの情報であるか記載する。
- ・25条報告にいつ、どこでどのような応急対策を実施したかを分かりやすく記載する。

【検証項目2】プレス資料（P8記載 前回までの訓練課題4に対応）

【達成目標】模擬記者会見の資料において、発生時刻等の記事が整合性をもった記載であることを確認する。

2. 実施日時及び対象施設

2. 1 実施日時

令和5年10月24日（火）

第1部 10:10～11:30 総合訓練

第2部 13:30～14:30 情報収集・通報訓練

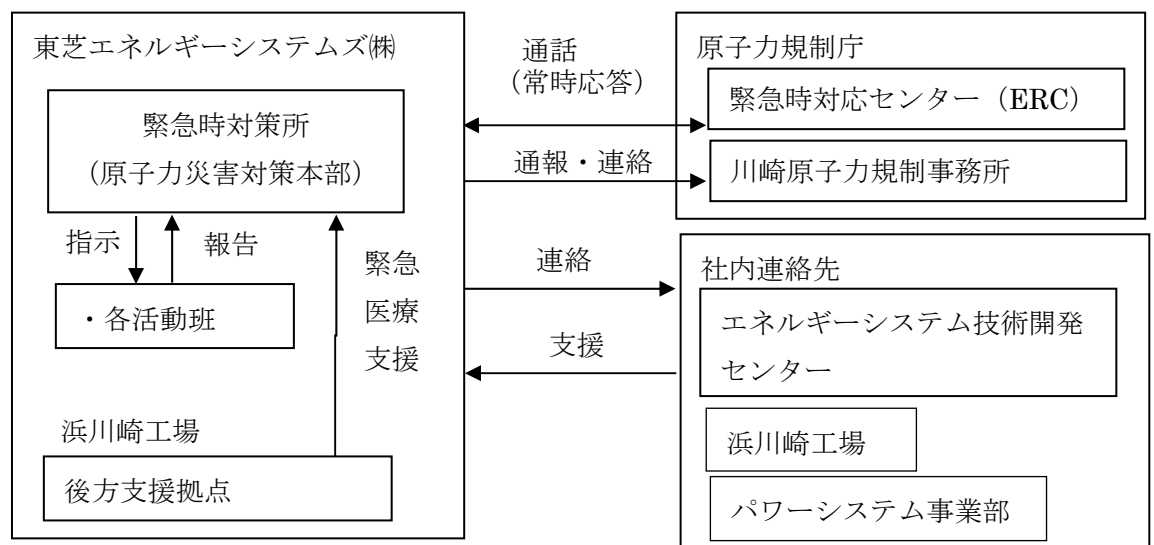
2. 2 対象施設

東芝エネルギーシステムズ(株) 原子力技術研究所

- ・緊急時対策所
- ・臨界実験装置 (NCA) 施設

3. 実施体制、評価体制及び参加人数

3. 1 実施体制



※外部関係機関の通報、連絡は以下の機関とし下記以外は省略とする。

原子力規制庁 (緊急時対応センター (ERC)、川崎原子力規制事務所)

3. 2 評価体制

(1) 訓練時に社内評価者、社外評価者を配置し、「原子力防災訓練チェックシート」を用いて各訓練の状況进行评估する。

(2) 訓練後に反省会を開催し、社内・社外評価者による評価内容と各活動班による自己評価の確認及び改善点の抽出を行う。

3. 3 参加人数

参加者：プレーヤ44名 (訓練対象者数42)、コントローラ2名

評価者：6名 (社内) + 1名 (社外)

注) 社外評価者に関しては、本部状況を録画して、後日評価していただく予定。

4. 訓練項目・内容（防災業務計画との整合性）及び評価基準

4. 1 緊急時態勢の発令、原子力災害対策本部の設置、要員参集訓練

(1) 原子力防災管理者は、警戒事態を発令し、緊対所に災害対策本部要員を召集し、災害対策本部を設置する。本年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、緊対所の他、他の会議室にも要員を召集し、オンラインで情報共有を図る。原子力防災マニュアル（以下、マニュアル）に基づき災害対策本部の設置は、警戒時態勢の発令後5分以内を目途とする。（1部訓練）

(2) 原子力防災管理者は、事態の進展により、緊急事態を発令し、原子力災害対策本部を直ちに設置する。（2部訓練）

4. 2 通報訓練

(1) ERC対応者は、ERCへの情報共有・事態終息等の説明のため、ERCと通話を行う。常時通話は、マニュアルに基づき警戒時態勢の発令後15分以内を目途とする。（1部訓練）

(2) 本部は、警戒事態事象発生による本部立ち上げのFAX通報をできるだけ速やかに行う。（マニュアルに基づき本部設置から15分以内を目途とする）また、警戒事態発生後の連絡を、事態の進展に合わせて実施する。（1部訓練）

(3) 特定事象（原災法第10条事象、第15条事象）発生時に、社内外への通報連絡を実施する。マニュアルに基づき事象発生時刻（原子力防災管理者が判断した時刻）から15分以内を目途とする。（2部訓練）

(4) 神奈川県、川崎市、東京都及び川崎臨港消防署への通報訓練は、別途要素訓練として実施する。

4. 3 情報収集訓練

(1) 本部は、負傷者への対応、周辺監視区域内の線量モニタリング、緊急時対策所要員以外の従業員の避難誘導及び自衛消防隊への活動要領の指示及び情報共有を行う。戦略シートに記載されている優先度の高い指示事項が確実に実施できたか、ホワイトボード等の文字情報として緊急時対策所で情報共有が確実に実施できたかを評価する。（1部・2部訓練）

(2) 防災管理者は、適宜ブリーフィングを行い、本部要員との情報共有を行う。（1部・2部訓練）

(3) (1)～(2)の内容に関し、すべての項目が実施できることを評価する。

4. 4 緊急時医療（救助）訓練

(1) 現場の技術班、放射線班は、負傷者の汚染状況を確認し、管理区域以外に搬出する。（1部訓練）

- (2) 救護班は、負傷者を救護所に搬送する。(1部訓練)
- (3) 後方支援拠点より派遣される産業医、看護師は救護所を設置し、負傷者の処置、状況の記録を行う。(1部訓練)
- (4) (1)～(3)の内容に関し、すべての項目が実施できることを評価する。

4. 5 モニタリング訓練

- (1) 放射線班は、本部の指示^(注)があった場合には、可搬型モニタリング設備(サーベーター)を用い、NCA周辺の放射線量測定を実施し、本部に報告する。(1部訓練)

シナリオ関連のためマスクング

- (3) (1)～(2)の内容に関し、すべての項目が実施できることを評価する。

4. 6 避難誘導訓練

- (1) 警備誘導班は、本部の指示^(注)があった場合には、周辺監視区域内従業員を事業所敷地内の一時避難先へ避難誘導する。(1部訓練)
- (2) 放射線班は、本部の指示^(注)があった場合には、避難従業員のスクリーニング検査を実施し、結果を本部に報告する。(1部訓練)
- (3) (1)～(2)の内容に関し、すべての項目が実施できることを評価する。

4. 7 自衛消防隊との連携訓練

- (1) 現場の技術班、放射線班は自衛消防隊の消火活動への情報提供、放射線管理等の連携活動を実施する。(1部訓練)

4. 8 広報訓練

- (1) 広報班は、緊対所からの情報に基づき、プレス発表資料を策定し、記者(社内)からの質疑応答に対応する。プレス発表資料は、記者発表の30分前を目標に作成し、質疑応答に適切に回答できるか評価する。
- (2) プレス発表資料をHP上で社外公表する訓練は、別途要素訓練として実施する。

4. 9 後方支援訓練

本社からの支援により、原子力災害発生後の応急対策が計画できることを、別途要素訓練にて実施する。

(注) 第1部は、原子力災害対策特別措置法の警戒事態を想定しており、特定事象に至るシナリオとなっていない。ただし、NCA排気筒モニタの故障が発生するため、本部は、特定

事象「放射性物質通常経路放出」（原子力事業者防災業務計画 別表第1、第2参照）の判断ができないため、モニタリング、従業員避難、スクリーニング検査の指示を行うと想定する。一方、特定事象「放射性物質通常経路放出」は、事業所境界の放射線量が $5\mu\text{Sv/h}$ 以上に相当する数値（NCA 排気筒モニタのガスモニタで7000cpm以上）が10分以上継続して検出されることを想定しているため、事業所境界に設置しているモニタリングポストの線量から、特定事象に至っていない判断も可能である。本部が、モニタリングポスト数値から、特定事象に至っていない判断を行えば、モニタリング、従業員避難、スクリーニング検査の指示を行わないことも想定する。

5. 訓練シナリオ

2つの訓練を実施する。第1部では、原子力災害対策特別措置法の警戒事態を想定し、第2部では、原子力災害対策特別措置法第10条事象および第15条事象に至る原子力災害を想定した。詳細は以下のとおり。

5. 1 訓練形式

- ・シナリオ非開示型
- ・訓練途中での時間スキップは行わない。

5. 2 訓練想定

(1) 第1部

シナリオのためマスキング

[Redacted text block]

(2) 第2部

[Redacted text block]

6. 前回までの訓練に対する対応状況

No	前回までの訓練の課題	改善（対策）状況
1	<p>ERC 備え付け資料を廃止措置中の現状を反映したものに修正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ERC 書架資料の図面集を NCA 廃止措置反映版に修正する。 ・『*ERC 書架資料は必要に応じて見直し、適宜差し替える。 <p>見直しのタイミング：計画・規定の改訂時、施設状況の変更時』を社内防災マニュアルに記載する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング情報を早く提供できなかった。またモニタリング場所がわかりづらかった。 ・事故収束戦略シートの送付が遅かった。 ・FAX 第1報が遅かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『モニタリング場所を記載した図を送付する。』を社内防災マニュアルに記載する。 ・『事故が発生した場合は、都度事故収束戦略シートを ERC に送付しても良い。』を社内防災マニュアルに記載する。 ・『大地震等の災害が発生した場合は、FAX を15分以内に送付する。』を社内防災マニュアルに記載する。これらを教育で周知する。
3	<p>FAX の記載がいつまでの情報かわかにくかった。情報連絡シートでの誤記（汚染0名を3名と記載）、様式10にて「発生の事象と対応の概要」欄と「その他警戒事態該当事象の把握に参考となる情報」欄にまたがった記載があった。</p> <p>25条通報では表紙に戦略や火災収束の見通し等を記載すべきだった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・FAX の表紙にいつまでの情報であるかわかるように時刻を記載するように社内防災マニュアルの記載例を見直す。 ・社内防災マニュアルの様式記載例として、特に記載事項が無い場合は「-」を記入することと、各記載場所に記載すべきことについて記載する。 ・社内防災マニュアルの様式記載例として、25条通報では表紙に事故収束に向けた戦略や見通し等を記載する。これらを教育で周知する。
4	<p>プレス発表用資料でタイトルに『放射性物質の放出』という表現を用いたが、発生日時が地震発生日時となっている。放出日時への変更、あるいはその原因となった火災発生をタイトルにするなどの整理が必要であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社内防災マニュアルの別図第9プレス配付資料の例に事故が火災等であることを記載する。 また要素訓練で確認する。

7. ERC との情報共有に用いる資料・様式

資料1 原子力事業者防災業務計画 様式10 「警戒事態該当事象発生後の経過連絡」

資料2 原子力施設情報連絡シート

資料3 原子力事業者防災業務計画 様式4 「特定事象発生通報」

資料4 原子力事業者防災業務計画 様式7 「応急措置の概要報告」

資料5 事故収束戦略シート

資料6 ERC 備え付け資料 原子力技術研究所 写真図面資料集

(その他 原子力事業者防災業務計画 別図第9 「プレス配布資料」)

8. 2022年度訓練等を踏まえ、ERC 書架内の資料整備状況 (資料リスト)

No	資料名
1	「原子力事業者防災業務計画」 令和4年10月修正版
2	「原子炉（東芝臨界実験装置）NCA施設保安規定」 令和3年5月改正版
3	「核燃料物質等保安規定（N28-2）」 令和3年4月改正版
4	「東芝臨界実験装置（NCA）原子炉設置許可申請書（完本版）」平成11年8月
5	原子力施設の施設配置図
6	原子力技術研究所 写真図面資料集 *

*令和5年10月に差し替え予定

以上

2023年9月25日

東芝エネルギーシステムズ株式会社 原子力技術研究所 原子力防災訓練 中期訓練計画（概要） 個人情報のためマスキング

原子力技術研究所 原子力防災管理者 ■■■■■

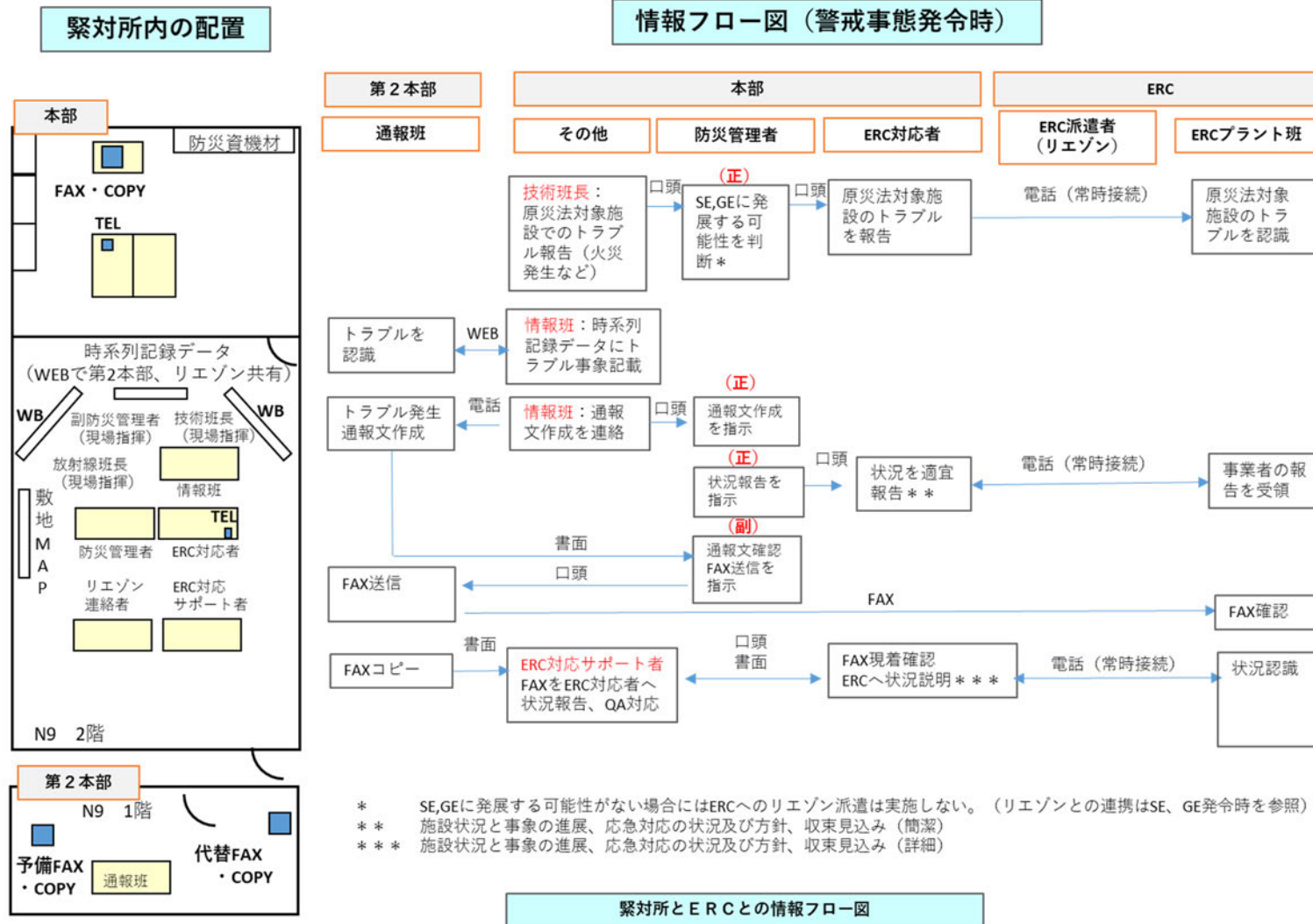
訓練項目		2020年度		2021年度		2022年度*8		2023年度*8		2024年度*8			
		要素訓練	総合訓練	要素訓練	総合訓練	要素訓練	総合訓練	要素訓練	総合訓練	要素訓練	総合訓練		
事 象 想 定	気象条件非提示		●		●		●		○		○		
	シナリオ非提示		▲*6		●		●		○		○		
	通常経路放出		●		●		●						
	夜間・休祭日における災害	▲						△					
緊 急 時 応 急 対 策 業 務	要員参集		●		●		●		○		○		
	通報連絡*1	▲	▲*2	▲	▲*2	▲	▲	△	△	△	△		
	緊急時医療(救助)		▲		▲		▲		△		△		
	モニタリング		●		●		●		○		○		
	従業員避難誘導		●		●		●		○		○		
	後方支援活動との連携	▲	▲*3	▲	▲*3	▲	▲*3	△	△*3	△	△*3		
	自衛消防隊活動との連携*4		●		●		●		○		○		
	公設消防との連携訓練	▲*5		▲*5		▲*5		△*5		△*5			
	広報活動	▲	▲*7	▲	▲*7	▲	▲*7	△	△*7	△	△*7		
年度目標										通報の正確性を向上する		通報の分かりやすさを向上する	

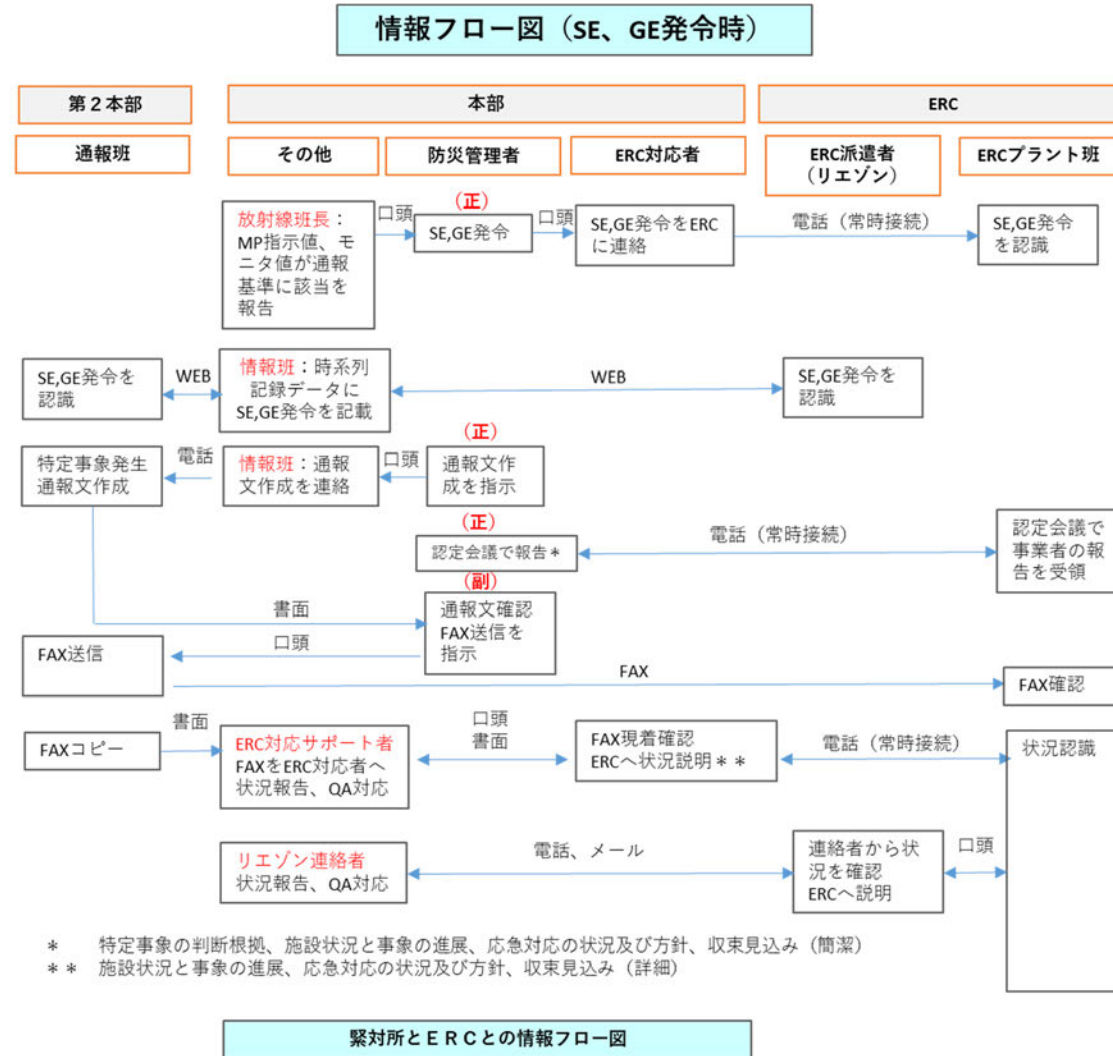
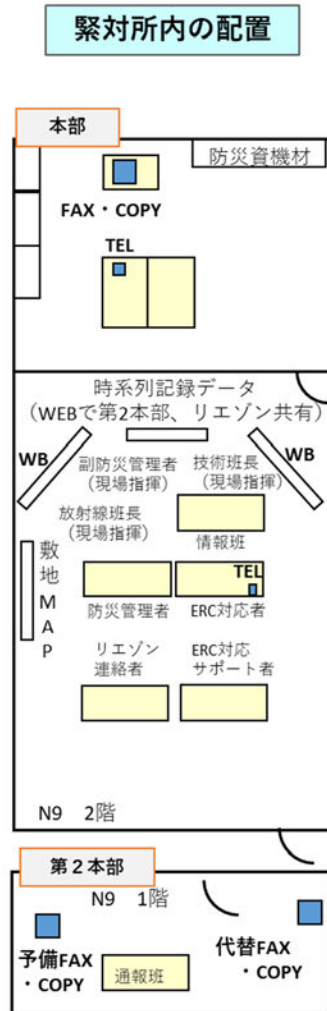
凡例 ○:実施予定、△:一部について実施予定または模擬(外部機関との連携など)、●▲は実績

*1: 関係自治体、川崎臨港警察署との通報訓練は別途実施。 *2: ERC派遣を実施。 *3: 産業医、看護師との連携を実施。 *4: 消防設備の放水訓練は別途実施。

*5: 消防との通報訓練は別途実施。 *6: 防災管理者(正、副)以外は非開示。 *7: 模擬記者会見 *8: 2部制訓練。

本中期計画は、毎年見直しを行って作成。2022年度から、2部制訓練のため、ERC派遣は実施しない。





要員の役割分担

役職・機能班	役割分担	人数
防災管理者	指揮統括	1名
副防災管理者	警備との連絡・指示、本部指揮者への指示、1名はコントローラ	3名
技術班	班長：現場指揮 現場対応（初期消火、負傷者対応、応急措置）	3名
放射線班	班長：現場要員との連絡、指示 放射線管理、情報の取得（放射線量確認・監視、モニタリング、避難従業員のスクリーニング）	5名
情報班・通報班	WB記録、通報FAXの作成、送信 ERC対応者（ERCとの常時接続による連絡）	5名
警備誘導班	従業員の避難誘導	6名
救護班	負傷者の救護・搬送	2名
総務班	訓練では総務班の役割無し、評価者、通報班に協力	2名
広報班	模擬記者会見用のプレス文を作成	3名
資材班	訓練では資材班の役割無し、救護班に協力	2名
OFC、EMC 要員	訓練では補助役を行う、現場作業要員、コントローラ、情報班・広報班・放射線班に協力	9名
ERC 要員	通報FAXの確認	1名

訓練計画説明に係る面談時の確認事項

確認事項	回答
<p>全般</p> <p>○訓練計画<資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画上の今年度訓練の位置付け ・ 今年度訓練の目的・達成目標 ・ 主な検証項目 ・ 実施・評価体制 ・ 訓練の項目・内容（防災業務計画の記載との整合） ・ 訓練シナリオ <ul style="list-style-type: none"> － プラント運転状態、事象想定、スキップの有無等 － TV会議システムを使用する場合は、TV会議システム使用不能状態の場面設定の取り入れを検討すること ・ その他 <ul style="list-style-type: none"> － COP様式(準備している場合) － 緊対所レイアウト図、要員の役割分担 － ERC対応者への情報フロー図 － ERC対応ブース配席図、役割分担 － ERC書架内の資料整備状況（資料一覧） <p>○評価指標のうち、主に [P]、[D] に関する内容<資料></p> <p>⇒詳細は以下参照</p> <p>○事業者とERCの訓練コントローラ間の調整</p> <p>⇒詳細は以下参照</p> <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <資料>となっているものは面談資料として提示頂くもの（訓練シナリオ（非提示型の場合）、個人名連絡先など、必要な箇所にはマスキング処理を確認する。） ・ COP:共通状況図のこと。事故・プラントの状況、進展予測と事故収束対応戦略、戦略の進捗状況について認識の共有のために作成される図表であって、各社で様式や名称は異なる。 	<p>>①東芝エネルギーシステムズ株式会社 令和5年度 事業者防災訓練実施計画 参照</p> <p>>②緊対所の配置、情報フロー図 参照</p> <p>>③要員の役割分担 参照</p> <p>>①訓練実施計画 参照</p>

指標 1：緊急時対策所とERCプラント班との情報共有

○ 事象の進展や事故収束戦略・予測進展の変更といった状況変化時や、適時に施設全体を俯瞰した現況について、テレビ会議システム等での発話等により説明ができたかを評価の観点とする。

○前回訓練を踏まえ、情報共有に係る体制・運用、情報提供のための説明資料等について見直した点、また、確実な情報共有を行うために取り組んだ点（マニュアル改善、教育・訓練等）を確認する

○事業者が定めるリエゾンの役割を確認する
 ※訓練時にリエゾンを派遣するかは事業者の訓練計画に任せる

○COP の活用
 COP 様式を確認する

指標 2：確実な通報・連絡の実施

(①FAX 等の通報)

○特定事象発生の確認から通報するまでの目標時間の事業者の設定根拠を確認する。

>体制

・防災管理者（本部長）－副防災管理者－現場指揮者（放射線班長・技術班長）
 －ERC 対応者・通報班・情報班

>運用

・防災管理者は現場指揮者からの情報をもとにプラント状況や発生事象を把握し、進展予測と事故収束対応を図る。
 ・ERC 対応者が電話を常時接続し、ERC 備え付け資料や FAX 送信した様式及び事故収束戦略シート等を活用して状況や進展予測、収束戦略を適宜説明する。

>今回の訓練では、前回の課題である「ERC 備え付け資料を廃止措置中の現状を反映したものに修正する」について改善を行うため、書架資料を N C A 廃止措置状況を反映したものに修正準備が完了した。また、通報に関する課題へ対応するために原子力防災マニュアル（以下マニュアル）の見直しを実施し、今後、これらを使った教育と要素訓練を予定している。

>リエゾンは、緊対所の要員と携帯電話で連絡をとり、ERC 常時接続者とは別にプラント班への情報提供にあたる。
 シナリオ関連のためマスキング

>特になし

第 2 部訓練にて実施する。

>原子力防災マニュアルに記載。
 「防災管理者は、緊急時態勢の事象（特定事象）の発生について通

(②通報文の正確性)

○通報 FAX 送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記等があった際の対応を確認する

○発出した EAL が非該当となった場合の対応を確認する

(③EAL 判断根拠の説明)

○前回訓練を踏まえ、EAL 判断根拠の説明について、確実な説明を行うために取り組んだ点（マニュアル改善、教育・訓練等）を確認する

(③10 条確認会議等の対応)

○10 条確認会議、15 条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名を確認する

(④第 25 条報告)

○25 条報告の発出タイミングの考え方を確認する

○訓練事務局側が想定する、今回訓練シナリオ上の 25 条報告のタイミング、報告内容（発生事象と対応の概要、プラント状況、放出見通し/状況、モニタ・気象情報など）、回数（訓練シナリオ中の記載されているか）を確認する

なお、①及び④の通報文は、送信操作だけではなく送付先に着信していない場合は「確実な通報・連絡の実施」に該当しない。

報を受け、又は自ら発見したときは、その事象を判断した時刻から15分以内を目途として、業務計画「様式第4」に定められた通報様式に必要事項を記入し、業務計画「別図第3」に示す原子力規制委員会、神奈川県知事、川崎市長、東京都知事その他定められた通報先にファクシミリ装置を用いて一斉に送信する。」

>FAX 通報文のチェック体制は、2名のFAX文記入者による相互チェックの他、防災管理者（正、副）によるチェックを実施する。また、誤記があり訂正が必要な場合には、様式毎に訂正FAXを送付することをマニュアルに記載している。

>事態收拾判断の目安、EALが非該当となった場合にはERCプラント班に連絡することをマニュアルに記載している。特に、EAL非該当はERCが判断するため、事業者はEAL基準を下回ったことを連絡する。

>マニュアルに<特定事象の確認、認定会議への参加>を追記し、特定事象の判断根拠、事象の進展予測と応急対策、收拾の見込みを伝えることを記載している。

特定事象認定会議の対応は本部要素訓練で実施することとし、第2部訓練では模擬とする。

> [Redacted]
[Redacted]
[Redacted]

シナリオ関連のためマスキング

指標3：通信機器の操作

○通常使用するERCとの通信機器に支障が発生した場合の代替手段及び移行操作の説明並びに前回訓練を踏まえたマニュアル改善、教育・訓練等の実績を確認する。

<TV会議システムを使用する場合>

○訓練時のTV会議システム使用不能状態の場面設定を確認する。

<TV会議システムを使用しない場合>

○訓練時に通信不通などのマルファンクション実施予定の有無を確認する。

> 1階執務室の複合機を代替機・予備機としている。

通常使用機 : 2階緊対所奥のFAX機

トラブル時の代替機 : 1階執務室FAX機1

予備機 : 1階執務室FAX機2

これをマニュアルに記載している。

自治体との連絡を確認する要素訓練では、これら3台の通信を確認している。

> [Redacted]

シナリオ関連のためマスキング

> TV会議システムの使用はない。

> マニュアルに通常使用するFAX機のほかに代替機を記載している。

[Redacted]

シナリオ関連のためマスキング

指標4：前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

○訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていることを確認する。

○訓練時における当該改善策の有効性の評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの）が作成されていることなど）の説明

○課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練で対応している場合は、その検証結果を確認する。

> ①訓練計画書 1. 3 主たる検証項目及び達成目標 参照

> ④訓練チェックシート 参照

> 今後、通報要素訓練、本部要素訓練を10月に計画している。

<p>○今年度の訓練で課題検証を行わない場合にあつては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況を確認する。また、今年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いことを確認する。</p>	<p>> 前回課題については、今回の訓練ですべて検証を行う計画である。</p>
<p>指標 5 : シナリオ非提示型訓練の実施状況 ○開示する範囲、程度（一部開示の場合、誰に／何を開示するのか具体的に記載）及びその設定理由を確認する。</p>	<p>> 今回の訓練では、昨年度同様、防災管理者、副防災管理者を含むすべての要員に対して、シナリオを非開示として行う。 気象条件、線量情報は、当日、管理室の監視盤およびMP設置現場に貼り紙で提示する方式をとる。</p>
<p>指標 6 : シナリオの多様化・難度 ○訓練シナリオのアピールポイントを確認する。</p> <p>○シナリオ多様化に関し、付与する場面設定を確認する。 ○訓練プレーヤーへ難度の高い課題をどのように与えているかを確認する。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間：要員が少ない時間帯 ・ 場所：対応が困難となる場所 ・ 同時発災：同一地域における複数事業所同時発災 	<p>> [Redacted]</p> <p style="text-align: center;">シナリオのためマスクング</p> <p>> 付与する場面設定（第1部）</p> <p style="text-align: right;">シナリオのためマスクング</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象：通常訓練で想定しない天候や組み合わせなど ・ 体制：キーとなる要員の欠員 ・ 資機材：手順外の資機材の活用 ・ 計器故障：EAL判断計器または重要機器故障、これに伴う代替パラメータでの確認 ・ 人為的ミス：操作や報告のミス ・ OFC対応：要員派遣に加え、オンサイトと連携した活動 ・ 判断分岐：マルチエンディング、途中の判断分岐 ・ その他：複数汚染の傷病者など 	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">シナリオのためマスキング</p> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div>
<p>指標7：広報活動</p> <p>○評価要素①～④それぞれについて、対応、参加等の予定についての説明</p>	<p>> 模擬記者会見を予定</p>
<p>指標8：後方支援活動</p> <p>○評価要素①, ②それぞれについて、具体的活動予定（特に、実動で実施する範囲を明確にすること）を確認する。</p> <p>○一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせ一連の後方支援活動の訓練を実施する場合は、その内容を確認する。</p>	<p>> ①事業者間の支援活動については、他事業者との協定等を結んでいないため実施しない。</p> <p>②支援拠点との連携では、緊急時医療（救護）訓練で産業医、看護師の協力を得て救護班が搬送した負傷者の救護の連携を行う。</p> <p>③後方支援活動として、本社からの支援により、原子力災害発生後の応急対策が計画できることを、別途要素訓練にて実施する。</p>
<p>指標9：訓練への視察など</p> <p>(①他原子力事業者への視察)</p> <p>○他事業者への視察実績、視察計画を確認する。</p> <p>(②自社訓練の視察受け入れ)</p> <p>○自社訓練の視察受け入れ計画（緊対所の視察受け入れ可能人数、募集締め切り日、募集担当者の氏名・連絡先）を確認する。</p> <p>(②ピアレビュー等の受け入れ)</p> <p>○ピアレビュー等の受け入れ計画（受け入れ者の属性、レビュー内容等）</p>	<p>> なし（新型コロナウイルス感染症防止のため）</p> <p>> なし（新型コロナウイルス感染症防止のため）</p> <p>> 社内の関連部門の視察を受け入れる（社内の防災担当部署、訓練全般）</p>

<p>を確認する。</p> <p>(③ERCへの訓練視察)</p> <p>○ERCへの訓練視察の実績、視察計画を確認する。</p>	<p>をレビュー) また、██████に緊急時対策所の状況を録画してお渡ししてレビューしていただく予定。 個人情報のためマスキング</p> <p>> 9月19日 ERCでの訓練 (██████訓練) を視察した。 個人情報のためマスキング</p>
<p>指標 1 1 : 訓練参加率</p> <p>○参加予定人数 (うち、リエゾン人数、コントローラ人数)</p> <p>○評価者予定人数を確認する。</p>	<p>>参加人数 : 44名 (内コントローラ2名)</p> <p>>評価者人数 : 8名 (社内、社外)</p>
<p>備考 : 中期計画の見直し</p> <p>○見直し状況、見直し内容、令和5年度訓練実施計画の位置づけを確認する。</p> <p>○見直し後の中期計画を確認する。</p> <p>○前回訓練の訓練報告書提出以降から次年度訓練まで対応実績・スケジュール (作業フローなど) について、以下のPDCAの観点で概要を確認する。</p> <p>【観点】 前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏まえた [C] 及び [A]、中期計画及び原子力防災業務計画への反映 [P] の時期</p> <p>[C] 訓練報告書のとりまとめ時期</p> <p>[A] 対策を講じる時期</p> <p>—具体的な対策の検討、マニュアル等へ反映、周知・教育/訓練など (前回の訓練実施結果報告書に掲げた各課題についての対応内容、スケジュール)</p> <p>—原子力事業者防災業務計画への反映の検討事項・時期 (定期見直し含む)</p> <p>[P] 中期計画等の見直し事項・時期、次年度訓練計画立案時期</p>	<p>>2部制訓練導入のため2022年8月に中期計画を見直した。令和5年度も2部制の訓練を実施する。過去の要素訓練の実績を実情に合わせて追記した。 ①訓練実施計画 参照</p> <p>>前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏まえた [C] 及び [A]</p> <p>[C] 前回訓練報告書は、2023年1月に提出</p> <p>[A] 下記のアクションを実施 (予定含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの改訂 ~2023年10月 ・マニュアル変更内容の周知・教育 ~2023年10月 さらに防災要員向け教育で周知 (10月) ・要素訓練 ERC対応訓練 (10月) 通報、広報、防護装備訓練 (9月、10月) 自治体・消防署との通報訓練 (9月、10月) 後方支援訓練 (1月) ・本年度は、原子力事業者防災業務計画の見直しの結果、修正は行わない。 ・今回訓練の課題抽出、対策は令和5年度末までに実施

<p>○前回訓練実施後の面談時に説明した PDCA 計画を再度確認する。</p>	<p>[P] 中期計画等の見直し事項・時期、次年度訓練計画立案時期 ・中期計画の見直しは令和5年9月、次年度の訓練計画は令和5年上期に実施</p>
<p>備考：現場実動訓練の実施 ○現場実動訓練の実施内容</p> <p>○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携を確認する。 ○現場にいる協力企業等の対応の考え方を確認する。</p>	<p>> [REDACTED] [REDACTED] シナリオのためマスキング [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]</p> <p>> これらの活動は、本部から指示し、活動状況、結果は現場から本部へ報告する。本部は報告を得て次の対処を判断する。 > 協力企業の参加は計画しない。</p>
<p>備考：10条確認会議等の対応 ○10条確認会議、15条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名</p>	<p>> 要素訓練で実施することとし、第2部訓練では、確認会議、認定会議は模擬とする。</p>

訓練コントローラ間の調整事項

<p>○ERC広報班との連動の有無</p>	<p>>なし（ただし、第2部訓練時に、広報班が広報用の資料を作成し、その資料を基に模擬記者会見を予定。昨年同様にERC殿に広報用の資料送付し確認いただく訓練を実施したいと考えます。）</p>
<p>○リエゾンの人数、入館時刻、訓練参加タイミング</p>	<p>> [Redacted] [Redacted] シナリオ関連のためマスキング</p>
<p>○訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否</p>	<p>>第1部訓練後、ERCプラント班との振り返りを実施希望します。 対策本部が收拾を判断し、FAX最終報がERCプラント班へ到着後、訓練を終了します。予定では11:30終了なので、引き続き、実施したいと考えます。</p>
<p>○事前通信確認実施の要否</p>	<p>>FAX通信を希望します。 個人情報のためマスキング</p>
<p>○ERCと連携するコントローラの所属、氏名、連絡先</p>	<p>>原子力技術研究所 [Redacted] [Redacted] 個人情報のためマスキング</p>
<p>○ERC対応者の職位、氏名</p>	<p>>情報班長（副防災管理者） [Redacted]</p>
<p>○事前通信確認希望日時</p>	<p>・FAX通信：事前のFAX通信テストを面談終了後の都合の良い時に希望します。FAXは3台ありますので、3台FAX通信を実施していいでしょうか。ERCのFAXは [Redacted] でよろしいでしょうか。 個人情報のためマスキング</p>
<p>○訓練時、メールを利用したERCプラント班への資料提供の実施の有無</p>	<p>>現状は想定していません。基本はFAXにておくりますが、メールでおくる場合に備えてアドレスをご教授いただきたくお願いします。 または、Webexによる共有を行なうことも可能です。その際は接続先をご連絡下さい。</p>

なお、訓練での通報先の電話番号、手順は以下でよろしいでしょうか？

第1部訓練

最初の連絡先（第1報から常時接続への切り替え）

ERC 対応者 個人情報のためマスクング

①電話 [Redacted]

このあと②に切り替える

②電話 [Redacted]

FAX 送信

F A X [Redacted]

FAX 着信確認

電話 [Redacted]

第2部訓練

最初の連絡先（第1報から常時接続）

ERC 対応者 個人情報のためマスクング

① 電話 [Redacted]

FAX 送信

F A X [Redacted]

FAX 着信確認

電話 [Redacted]